

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○8月5日～

先週は日銀金融政策決定会合で日本が政策金利を0.25%に引き上げ、長期の日本国債の買い入れについても減額していく計画を発表しました。

2026年春には今の半分程度の買い入れ額になるということで、確実に金融緩和から出口に向かって進み始めました。

利上げについては、それほどサプライズではなかったのですが植田総裁が物価、賃金上昇など経済状況を見ながら金利を上げていく方針を示唆したことで、一気にリスク回避モードが高まりました。為替も大きく円高に動きました。ドル/円は150円を割り込み、146円台まで下げました。

ポジションが大きく円安に傾いていたこともあり、一気に巻き返す動きが出た可能性があります。日経平均は2日(金)に1日で2200円も下落するという値幅で見ると1987年のブラック・マンデー以来のとんでもない暴落になりました。

ただ、下落率だと6%弱なので87年の14.9%とは比べものにならないように見えますが。

冷静に見ると為替は今年の春の水準、日経平均も今年の1月の水準程度まで戻したということで、春以降の円安、株高が異常だったのかもしれませんが。

重要なのは、今週の動きです。

月足で見ても2021年以降のドル/円の上昇トレンドのサポートあたりまで下げているため、今週さらに大きく下がれば長期での上昇トレンドが崩れてきます。

テクニカル分析では、長期でのトレンドが転換してしまうと簡単には元に戻らないため今後は円高トレンドが始まる可能性が高まります。

先週は米国でもFOMC、雇用統計など重要指標の発表も多く、特に週末の雇用統計が予想より悪かったこともあり、金曜夜の雇用統計の発表後に円高ドル安と株安が進んでパニック的な動きになりました。しかし、9月の米国の利下げは確実視されつつあり、株価にとっては支援材料になりそうです。今後は円安ではなく、米国利下げによるドル安の動きに注目したいです。

米国株は、ナスダックは大きく下げましたがNYダウの下げは通常レベルなので、今後NYダウが大暴落する動きが出なければ落ち着いてくるのではないのでしょうか。

今週は、先週ほど重要指標の発表がないので、週明けから順調に戻してくるかどうかポイントになりそうです。

かなり売られすぎ状態にあるため、冷静さを取り戻すと一度は戻りを試す動きが出るのではないのでしょうか。ドル/円、クロス円の多くのペアが4週連続で陰線となっています。

心配なのは、イスラエルとハマスの問題など中東情勢が再び悪化しているためリスク回避の動きが強まれば円高の流れはまだ続くかもしれません。

相場が大きく動いている時は、いつもより慎重にポジション管理をしっかりとしていきたいです。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### ● テクニカルで見た重要ポイントは？

#### <ドル/円>

先週のドル/円は週初めの155円台から見ると8円以上も下落して週末には146円台まで下げました。7月初めには162円あたりのレートだったことを考えると1ヶ月もしない間に15円以上下げたこととなります。

これは、2022年秋の介入を行った後、2023年1月まで3ヶ月かけて25円近く下げた時以来の大きな円高の動きです。月足、週足、日足で陰線が続いているため、試し買い程度で買うのはいいですが大きくポジションを持つのは危険です。

週明けに146円台前半で下げ止まれば150円まで戻す可能性があります。

今までサポートだった150円台、151円台が抵抗になってくるため、どこまで戻せるかに注目したいです。下値が146円を割り込んでくると145円あたりのサポートが意識されます。

#### <気になるクロス円>

クロス円も大きく下げているペアが多く、先週安値を割り込む動きには警戒したいです。

下げがおさまり、底打ち、反転上昇となれば買ってみたいです。

ただし、不安定な動きが続くかもしれないので、ポジションは少なめでトレードがよさそうです。

長期的にはクロス円も下落トレンドに転換していく可能性が高まってきたので、週足、月足も見ながら流れについていきたいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

#### <今週のファンダメンタル？>

日本では6月貿易収支、7月景気ウオッチャー調査などがあります。

米国では7月サービス部門・総合PMI(改定値)、7月ISM非製造業景況指数、6月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで7月サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏で6月卸売物価指数、6月小売売上高、ドイツで6月製造業新規受注、6月鉱工業生産、7月消費者物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで政策金利、中国で7月Caixinサービス部門、7月貿易収支の発表などがあります。